

## 令和5年度第2回島根県立少年自然の家運営委員会 議事録要旨

- (1) 開催日時：令和6年2月22日（木）13時30分から15時30分まで
- (2) 開催場所：島根県立少年自然の家 第1研修室
- (3) 出席者：田中利徳委員長、安達委員、井口委員、石山委員、鍛冶委員、坂本委員、佐田尾委員、田中茂秋委員、南口委員、舟木委員、山口委員（11名）  
 （欠席委員：河村委員、内藤委員）  
 事務局職員9名

	意見・要望等	回答
1	令和元年度比の利用者の減少に関して、生徒数の減少は物理的に仕方ない。自分の学校でも4年後には100名を切るという現状であり、市内の小学校も全て減少すると思う。ついでには、生徒数は減少することを前提に事業を考えて、少ない人数で内容を充実させていくことを考える方が健全ではないかと思う。広報の仕方は今検討中だと言われたが、詳しく聞かせてほしい。	例えば、わくわく外遊びデーについての広報は毎月、そして開催日前にホームページや、ブログ、LINE等で行っている。今後、LINEを送るタイミングや動画、イラストの挿入等をタイムリーに、より効果的な方法を考えてみて、どう変化するかを見たい。
2	児童数が減っており、5年生の宿泊研修だけでは難しい。学校の教育課程と関連したプログラム開発が必要。何年生の単元でこんなスケジュールで利用された等が発信できると、利用方法をあまりご存じない先生もこういう使い方ができるんだと参考になると思う。	アクアスの学習交流係で作っておられるように、何年生ならこの体験活動というイメージで作成すればいいと感じている。A委員さんには、江津市教育研究会で教職員を対象に利用いただいた事例をご紹介いただきたい。
	【A委員が江津市教育研究会で利用した事例を紹介】 春は障がい者スポーツの器具が新たに入ったということで、車いすバスケットとポッチャ体験を行い、結果的に2小学校の授業利用に繋がった。秋は創作活動で、どんぐり松ぼっくり工作などを行った。	学校の先生のおかげで、江津市の2つの小学校が、総合的な学習で障がい者スポーツを体験された。その際、実際に車いすバスケットをやっておられる障がいがある方との交流をされ、とても素敵な実践につながられた。また、1年生が生活科で秋を見つけに来られた学校もあった。  保育所、幼稚園は季節ごとに活用してくださり、活動センターで弁当を食べることもある。ある子ども園は1泊2日で利用していただいた。コロナ禍で止まっていた活動も少しずつ動き出している。入退所の方法は、バスをお持ちの施設もあるし、JRで来られて自然の家のマイクロバスで送迎することもある。
3	児童数の減少で学校の統廃合が加速する向きもある、利用者の目標2万人という数値もあるが、あまり無理のない範囲での活動が現実的と思う。 活動の30分前に研修スタッフと教師との打合せはありがたいが、一方で当該教師の負担も大きい。事前にオンラインでの打合せで行った実績はあるのか。	オンラインでの打合せは行っていない。電話でのやり取りをしている。  昨年度の前期の「利用団体指導者研修会」はコロナ禍であったため、Zoom会議で行った。当日までのところは、主に電話でやり取りを行っている。細かい内容はどうしても当日になる。絶対に必要な打合わせと、そうでない打合わせがあるが、相手方から求められれば、研修場所に向向いて打合わせを行うことも考えていく。
4	夏休みには、どうしても学校としての施設利用は減る、児童クラブの利用実績はどうか。児童クラブの子どもたちのエネルギーをどうやって発散するかが悩みである。	江津市の児童クラブは定期的に利用いただいている、また、自然の家のマイクロバスも使える。こちらから出向く出前型の体験提供も可能であり、施設を有効に活用していただきたい。
5	実際に自然の家で活動した子どもたちのアンケート結果は非常に良好である。来てもらうことが出来さえすれば、満足してもらえる。体験活動の一層の促進について、資料1に記載のある原体験（その後の生き方や考え方に大きな影響を与える体験）についてもう少し詳しく説明してもらいたい。	私が小学校2年生の時に自然の家に泊まって体験したことが、今でも心に残っている。大人になっても心に何か残るもの、それを原体験として子どもたちに提供したい。

6	<p>地域として、高齢者は関わりにくい。高齢者を連れてきてよいか。主催事業を見ていて高齢者も参加できる内容だと思う。子どもたちと接することで、地域に戻った時に、子どもたちとの関係も蘇るのではないか。ただし、事前の参加人数が把握できない。それでも大丈夫か。</p>	<p>可能だと思う。ただし、食堂は10人以上でのみ稼働するため、注意が必要。また、キャンセルの場合はキャンセル料が発生する。例えば日帰りであれば、マイクロバスの送迎もできる。いろんなやり方があるので、相談していただきたい。「少年に戻れる少年自然の家」というイメージかもしれない。</p>
	<p>以前、地域の方に参加してもらい、子供たちの各部屋に高齢者に入ってもらって、寝泊まりしてもらったことがある。</p>	
7	<p>受け入れ事業については、数値の説明があったが、主催事業の方も保護者のアンケートやレポート率といったエビデンスを示してもらおうとよい。また、特別支援学級の子は、当日の体調等により、急なキャンセルが起こりやすい。江津市の支援費の上限が決まっている関係で、キャンセルをした場合には保護者負担になる。そのため、積極的に働きかけにくい。県でキャンセル料を補助してもらいたい。</p>	<p>できるかできないか、検討してみたい。</p>
8	<p>蚊に刺されて保護者からクレームを言われる例もある。自然の中では当たり前のことが、当たり前でなくなっていると感じる。また、高齢者等、技術を持っておられる方との交流ができれば素敵なことと思う。 燃料費の高騰によるバス代にかかる経費が大きくなり、予算的に厳しい。送迎もしてもらえるのか。</p>	<p>幼児でも送迎は可能、江津市であれば半径20キロ、2往復までは可能。ただし、座席シート等を持ち込んでもらう。</p>
9	<p>高校生の活躍の場、社会教育の場として、イモームズに期待する。高校生のボランティア活動への意欲喚起、道筋、自分が役に立ったという経験につながればよい。</p>	<p>イモームズは今年から始めて1年目だが、すごくいい循環ができています。イモームズは中学生以上、高校生は現在1名で、これからしっかりと広報を行っていく。主催事業に参加した小学生からは、イモームズの先輩がかっこよく見えた、という声もある。小学生で体験し、中学生がイモームズとしてボランティアで参加、高校生になり忙しくなっても時間があればぜひ参加してほしい。</p> <p>今年度、北海道の大学の学生が自然の家を利用された。その大学のゼミの担当教官が江津市の出身で、江津市に関心をもち、こちらで獣医になってくれたらという思いがあったそうである。そういう縁が繋がっていけば、ありがたい。</p>